

京都市の街路樹



はじめに

都市の街路樹は、町並みに溶け込み景観に落ち着きを与え、通りに多彩な表情をもたらしながら、ひとときの安らぎと都市の暮らしに潤いをもたらしてくれます。

また、春には若葉の緑に生命の息吹を感じ、夏の炎天下には緑陰を形成し周辺の気温上昇を抑えてくれ、秋の紅葉、冬の樹形は直に季節感を伝えてくれます。

このように街路樹は、四季折々の変化を感じる最も「身近なまちの自然」と言えます。

ここでは、京都市の街路樹の変遷や、街路樹の育成管理の取組などについてご紹介します。

1 街路樹とは…

道路の構造の保全、安全かつ円滑な道路の交通の確保、その他道路の管理上必要な施設として、道路管理者が設置する「道路の附属物」の一種です（道路法第2条第2項）。

しかし、同時に、街路樹は「生きもの」であることが最大の特徴であり、本市では、植物管理の視点を持って育成管理を行っています。

2 街路樹の主な役割と効果

【景観】

町並みに統一感を与え、沿道景観に彩り・季節感・潤いをもたらす。

【環境】

緑陰を形成し夏の日差しを和らげ、周囲の気温上昇を抑えることでヒートアイランド現象の緩和、CO₂を吸収することで地球温暖化防止に役立つ。

【交通安全】

車と歩行者の分離、並木効果による視線誘導、ヘッドライトの防眩効果など、道路の安全性の向上に役立つ。

【防災】

火災時の熱吸収・低減による延焼防止効果、地震時の家屋倒壊防止などの防災機能が期待される。

【健康づくり・レクリエーション】

散歩やジョギングを促進し、健康増進や精神的な充実感を与えてくれる。

3 街路樹の変遷

京都の街路樹は平安京創建以来、京の景観の一翼を担ってきました。

【平安時代・室町時代】

平安京の朱雀大路にはヤナギが、大路小路にもヤナギ、エンジュ、サクラなどの並木が植えられていました。

北野天満宮前、南禅寺前など多くの社寺の参道に並木が植えられていたようで、江戸時代中期（1780）に刊行された都名所圖會には、南禅寺北側に松並木が描かれています。

【安土桃山時代】

天正年間、織田信長により東海道、東山道に街道並木としてマツとヤナギが植えられ、一里塚としてエノキを植栽していました。

【江戸時代】

慶長年間、徳川氏により全国の街道にマツやスギが植えられました。

京都では、加茂街道にクロマツが植えられ（宝永年間）、主な川筋にはヤナギ、サクラなどが並木として植えられていました。

【明治時代以降】

明治30年代（1897～1906）には、琵琶湖疏水沿いにサクラ、ヤナギ、カエデが植えられ、散策路としての整備も進み、サクラの名所として現在に至っています。

現在につながる近代的な「街路樹」として、明治45年（1912）に福羽子爵が大森京都府知事に贈ったユリノキを烏丸通（京都駅～丸太町通）に植えたのが、最初とされています。

大正時代には、都市計画法が制定され、都市計画街路の整備に伴い、街路樹の植栽が進められました。

第2次世界大戦後は、新たな道路建設や拡幅整備に伴い、幹線道路を中心に街路樹が整備され、現在に至っています。

4 街路樹の種類

京都市の街路樹は、歩道、中央分離帯、駅前広場などに多様な樹種を植栽しており、令和5年3月末現在、高木約4万本、低木約80万本を育成管理しております。高木の樹種（割合）は、イチョウ（35%）、トウカエデ（15%）、サクラ（10%）、ケヤキ（7%）、ハナミズキ（5%）、ユリノキ（4%）などであり、低木の樹種は、ヒラドツツジ、シャリンバイ、ヒペリカムなどがあります。数量については、便宜上、樹高3m以上のものを「高木」としており、主要な歩道の高木街路樹の箇所は以下のとおりです。

京都市の街路樹

主要な街路樹の箇所図（イメージ）



【主な樹種（高木）と植栽路線】

- **イチョウ**：北山通、今出川通、丸太町通、久世橋通、白川通、下鴨本通、河原町通、烏丸通、堀川通、千本通、福西東通 ほか
- **トウカエデ**：北大路通、新十条通、西大路通、油小路通、竹の里本通、向島ニュータウン ほか
- **ハナミズキ**：三条通、七条通、外環状線 ほか
- **サクラ**：第二疏水分線沿い、木屋町通、四条通、向島ニュータウン内、堀川通 ほか
- **ケヤキ**：御池通、釜座通、新林本通、桂坂本通 ほか
- **ユリノキ**：烏丸通、四条通、十条通、洛西ニュータウン内 ほか

※ 低木（市内一円）：ツツジ、ヒペリカム、アジサイ、シャリンバイ、アベリアほか
 ※ 京都市の街路樹本数（概数） 高木（高さ3m以上）：約4万本
 低木（高さ1m未満）：約80万本

◇ 主な高木

イチョウ【銀杏】 イチョウ科/落葉広葉樹



堀川通中央分離帯

中国原産の落葉樹であり、日本でも古くから社寺の境内などに植えられ、秋の紅葉が美しく親しまれてきました。

樹形が円錐形に整い、町並みに統一美をもたらすため、主にビスタ（見通しの景観）を強調する路線に植栽されています。

トウカエデ【唐楓】 ムクロジ科/落葉広葉樹

中国原産の落葉樹であり、18世紀初期に日本に入ってきました。京都市では、東山区の東福寺の通天橋付近に植えられたことから、通天楓とも呼ばれています。

葉は、三角状で浅く3つに切れ込んでおり、秋に鮮やかに紅葉します。



丹波橋通

サクラ【桜】 バラ科/落葉広葉樹

日本を代表する花木であり、京都市にもソメイヨシノやオオシマザクラ、ヨウコウザクラなど、多くの種類のサクラが植栽されています。

春には華やかにまちを彩り、夏には緑陰をもたらし、秋には紅葉する季節の変化が豊かな樹木です。



白川北通

ケヤキ【欒】 ニレ科/落葉広葉樹



新林本通

日本産の落葉樹であり、大径木として多用されています。

幹は直立して、枝はホウキ状に広がり樹形が美しく、秋には鮮やかに紅葉します。



千本丸太町交差点

ハナミズキ【花水木】 ミズキ科/落葉広葉樹

アメリカ原産の落葉樹で、花と実と紅葉と三拍子そろった樹木です。

直幹で枝が横張り形にやや水平に出ます。花は4月～5月に白い花や赤い花をつけ、実は10月～11月頃に赤く熟します。

◇ 主な低木

ヒラドツツジ ツツジ科/常緑広葉樹

ヒラドツツジ等のツツジ類は、花が美しいため、古くから庭に植えられ、品種改良が加えられてきました。

4～5月頃に赤や白の直径7cmほどの大型の花を咲かせます。暑さや大気汚染に比較的強いので、歩道と車道間の植樹帯など連続したところに植栽されます。

主な路線：河原町通、北大路通、美福通他

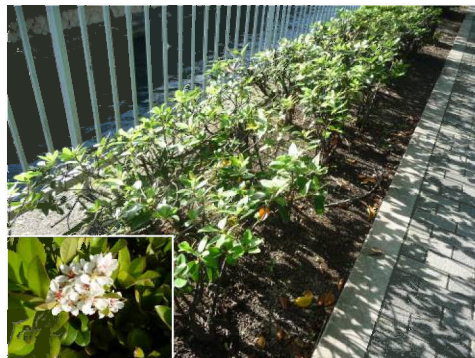


河原町御池交点

シャリンバイ バラ科/常緑広葉樹

シャリンバイ類は、4～6月頃に白色（又は淡紅色）の5弁の花をつけ、10～11月に直径1cm程の球形の実（黒紫色）をつけます。枝の分岐する様子が車輪のスポークのようで、花が梅に似ることからこの和名がついたと言われています。乾燥や大気汚染に強いことから歩道や中央分離帯に植栽されます。

主な路線：川端通、御池通、北大路通他



川端通



御池通

ヒペリカム オトギリソウ科/常緑広葉樹

ヒペリカム類は5～7月頃に黄色い花を咲かせ、比較的に開花時期が長い樹種です。この仲間の中には江戸時代に渡来した中国原産のビヨウヤナギやキンシバイがあります。開花時期が長いことから公園や街路樹に植栽されています。

主な路線：御池通、堀川通、中立売通他

5 育成管理

【日常の育成管理】

- ◇高木（紅葉街路樹（イチョウ、トウカエデなど））の剪定…隔年で実施
（紅葉街路樹以外のもの）の剪定…2年～5年
（シダレヤナギ）…毎年
- ◇低木の刈込…萌芽力のあるアベリア、ウバメガシなどは年2回、ツツジ類、シヤリンバイなどは年1回実施
- ◇除草…歩道植樹帯は年2回、中央分離帯は年3回実施
- ◇それ以外のもの…年間を通じて、灌水、病虫害駆除、枯枝除去、信号支障などの支障枝剪定、街路樹の巡視点検などの業務を行っています。

【紅葉街路樹の剪定】

平成21年以前の紅葉街路樹の剪定は、落ち葉清掃の負担軽減のため、紅葉前に全ての葉を落とす剪定を行っていました。その一方で、秋の京都の景観を形成する街路樹の紅葉が見たいという声を受けて、京都の伝統的な透かし剪定技術を生かして落ち葉量の減量と美しい紅葉景観の両立を図る京都市独自の「紅葉街路樹二段階剪定」の取組を始めました。しかし、「紅葉街路樹二段階剪定」は、葉量を減らす秋の剪定と樹形を整える冬の剪定の計2回剪定を1年で実施するため、コストがかかるという問題がありました。そこで、年に1回の秋ごろの剪定で、葉量の減少と美しい紅葉景観を実現する一回型の剪定（京都市型紅葉街路樹剪定：はんなり剪定）を令和2年度から本格導入しております。

- ◇剪定頻度…京都市内を2ブロックに分け隔年剪定。剪定時期は、秋ごろ。
- ◇剪定方法…枝葉を透かしながら、樹形を一回りから二回りほど小さくし、こずえのやわらかい枝葉を残すことで、美しい紅葉を実現する剪定手法です。

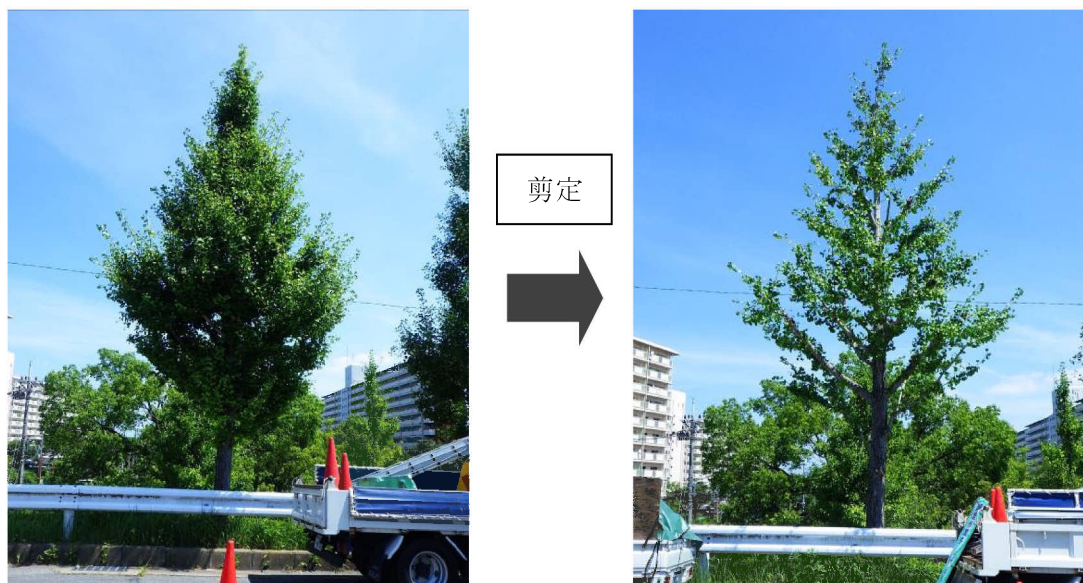
◎ トウカエデ



剪定



◎ イチョウ



6 街路樹サポーター制度の取組

本市では、「世界で最も美しい都市・京都」の実現を目指し、市民と京都市が共に汗して、街路樹の良好な育成とその周辺部の美化などに取組んでいただく「京都市街路樹サポーター制度」の推進に取り組んでいます。

◇サポーターの活動内容

- ・街路樹と周辺部の美化活動（落ち葉清掃、除草）
- ・街路樹の落下枝、病虫害などに関する京都市への情報提供

◇本市からサポーターへの活動支援

- ・用具（軍手、ほうきなど）の支給、ボランティア保険の加入、落ち葉回収の取組

◇令和5年12月末現在、163団体、2,361名を認定し、約6,100本、約42kmの街路樹育成をサポートしていただいています。興味のある方は、お気軽に管轄の土木みどり事務所までご連絡ください。



サポーター活動風景

7 街路樹についてよくある質問

Q1 街路樹が茂ってきたので、剪定してほしい。

京都市内の街路樹は、木の種類により剪定頻度を定めています。例えば、シダレヤナギは年1回、イチョウやトウカエデなどの紅葉街路樹は2年に1回の剪定を実施しています。また、枝葉が民地に越境している場合、信号や交通標識を隠している場合、歩道や車道の低い位置に枝葉が張り出している場合などには、剪定年度にかかわらず、その都度、対応しています。

Q2 落ち葉が発生する前に剪定してほしい。

市内には、高木が約4万本あり、樹種や場所によって1～5年の周期で剪定を実施しています。このうち、紅葉街路樹と呼ばれるイチョウやトウカエデなどについては、2年に1回の剪定を実施していますが、落ち葉につきましては、皆さんの門掃きへのご理解とご協力をお願いしています。

Q3 店の看板が見えないので、剪定してほしい。

個別事情による剪定は行っていません。ただし、街路樹の枝が民家や店舗などの敷地内に越境している場合や建築限界（路面から車道側 4.5m、歩道側 2.5mの空間）が確保できていないものにつきましては剪定を行います。

Q4 街路樹に害虫が発生しているので、対応してほしい。

街路樹に病害虫が発生している場合には、現地確認の上、薬剤散布や剪定駆除など、状況に応じた対応をいたします。まずは、病害虫が発生している旨を、管轄の土木みどり事務所までご連絡ください。

Q5 自宅前の歩道に多くの落ち葉が散乱しているので、清掃撤去してほしい。

京都市では、日常的、定期的な歩道の落ち葉清掃は実施せず、市民の皆さんへ門掃きへのご協力をお願いしています。

なお、幹線道路においては、車道清掃を月に 2～3 回程度実施しており、作業の予定日につきましては、管轄の土木みどり事務所にお問合せください。また、台風や突風などによる落ち葉で通行に支障があり危険と判断した場合には、緊急的に清掃する場合があります。

Q6 街路樹の落ち葉が雨樋に詰まるので、掃除してほしい。

個人の敷地内は所有者の方での対応をお願いしています。具体的には、雨樋に網状のカバーを取り付けるなど、落ち葉の堆積を防止する方法もありますので、ご検討ください。

Q7 歩道の落ち葉を清掃しているので、掃除用具を提供してほしい。

「京都市街路樹サポーター制度」に登録いただくと、清掃用具（ほうき、ボランティア袋、ちり取り、軍手など）を支給させていただきます。詳しくは、管轄の土木みどり事務所までお問合せください。

8 お問合せ先

京都市の街路樹に関するお問合せは
各行政区等を管轄する土木みどり事務所
月曜日から金曜日（祝日を除く）
午前 8 時 30 分から午後 5 時 15 分まで

管轄区域（行政区等）	事務所名	電話番号
北区・上京区	北部土木みどり事務所	075-492-3111
左京区	左京土木みどり事務所	075-791-9134
東山区・山科区	東部土木みどり事務所	075-591-0013
下京区・南区	南部土木みどり事務所	075-691-3158
中京区・右京区（京北地域除く）	西部土木みどり事務所	075-871-6721
右京区（京北） 左京区（花脊・久多・広河原）	京北・左京山間部 土木みどり事務所	075-852-1819
西京区	西京土木みどり事務所	075-392-9260
伏見区	伏見土木みどり事務所	075-611-5371

京の木と花とは

【京の木・京の花】

市民の緑に対する意識を高め「緑を守り育てる運動」を推進することを目的として、昭和 47 年に制定されました。

《京の木》



シダレヤナギ

ヤナギ科 落葉高木

シダレヤナギの歴史は古く、平安京の時代にはすでに植栽されており、しなやかな葉が風にそよぐ姿は、京都の風情に良く似合う木です。

枝が細く垂れ下がる姿からイトヤナギとも呼ばれます。

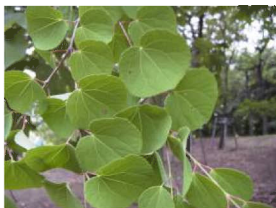


タカオカエデ

ムクロジ科 落葉高木

イロハモミジの別名を「タカオカエデ」と呼びます。

京都市の地名が別名になるほどの由来となった右京区の高雄地域は、群生するイロハモミジの紅葉が実に見事です。



カツラ

カツラ科 落葉高木

日本原産の樹木で、高さが 20 から 30 メートルにまで成長し、秋に美しい紅葉を見せてくれます。

木では珍しく葉の形がハート型をしており、落葉は甘い匂いを漂わせる樹木です。

《京の花》

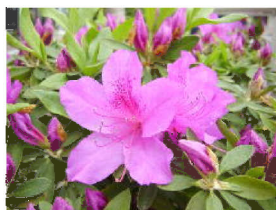


サトザクラ

バラ科 落葉高木

山里に群生するヤマザクラに対して、人里で観賞用に開発された桜の園芸種の総称をサトザクラと呼びます。

花弁が 5 枚以上になる八重咲きの桜もその一種です。



ツツジ

ツツジ科 落葉低木他

ツツジ科ツツジ属の植物の総称であり、サツキツツジ、ヒラドツツジ、シャクナゲなど多くの種類があります。

春から夏にかけて白や紫に咲き誇る姿はとても美しいです。



ツバキ

ツバキ科 常緑小高木

ツバキ科ツバキ属の植物の総称であるが、ヤブツバキを「ツバキ」と呼ぶことが多いです。

照葉樹林の代表種であるが、鑑賞、園芸用としても栽培されます。